

第5章 協働プロジェクト

第1章でも触れたように、地域福祉を推進するためには、市民・事業所・市社協・市それぞれが「自助」「共助」「公助」の役割分担のもと、互いに連携協力して取り組むことが大切です。

また、「第一次総合計画」では、特に協働の重要性がうたわれています。そこで、本計画では、テーマ別部会において、基本目標ごとに課題の解決策について検討を行い、その結果に基づき協働プロジェクトを設定しました。

市民・事業所・市社協・市の協働によりプロジェクトを推進し、それぞれの連携を深めていきます。

【基本目標1 市民としての第一歩、みんなで「参加」しよう！】

1 のっティと共に笑顔と声が飛びかう元気なまちをつくります

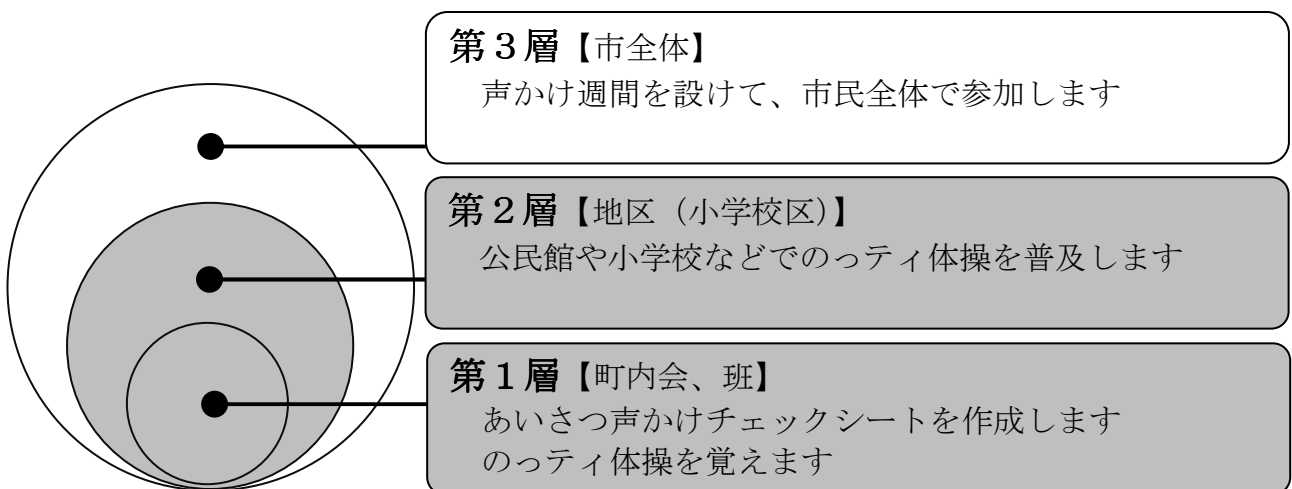
「あいさつ」は、よりよい人間関係を築く基本となります。「“ののいちっ子を育てる”市民会議」が中心となり、昭和55年から「愛と和のひと声運動」として積極的にあいさつ運動が行われていますが、地域においても子どもから高齢者までが世代を超えて、笑顔であいさつするように心がけます。

また、回覧板を渡すときなどに、顔を合わせひと声かけることで、向こう三軒両隣のつながりがあるまちをつくります。

さらに、のっティ体操や、子ども会で行っているラジオ体操などに、市民が積極的に参加することで元気なまちをつくります。

①どの圏域から実施するか

第1層の町内会、第2層の地区・小学校区を中心に取り組みます。



②プロジェクト実現に向けた役割分担

市民の取り組みを中心として、いまずぐできる取り組みから実行していきます。3年後には取り組みの進捗状況を確認し、今後の方向性を検討します。

	いまずぐできること	3年後にできること	5年後にできること
市民が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや声かけについて、いまずぐできる身近な取り組みを検討し、チェックシートや標語をつくる。 ・声かけ週間をつくる。 ・子ども会の夏休みラジオ体操に参加する。 ・子ども会や老人クラブで、のっティ体操を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みが定着しているかを確認し、今後の方向性を検討する。 ・のっティ体操を実施する子ども会や老人クラブを増やす。 ・のっティ体操普及推進員の自主グループを立ち上げボランティア登録を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みが定着しているかを確認し、今後の方向性を検討する。 ・のっティ体操を実施する子ども会や老人クラブをさらに増やす。 ・のっティ体操普及推進員の自主グループの活動を広げる。
事業所が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・のっティ体操を取り入れる。 ・声かけ週間に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のっティ体操を取り入れる事業所を増やす。 ・声かけ週間に参加する事業所数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のっティ体操を取り入れる事業所をさらに増やす。 ・声かけ週間に参加する事業所をさらに増やす。
市社協が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートや標語づくりを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のっティ体操普及推進員グループのボランティア保険加入に助成する。 ・のっティ体操普及推進員グループのボランティア活動に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して活動のチェックシートや標語づくりを支援する。 ・のっティ体操普及推進員活動を支援する。
市が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等で声かけ週間を紹介する。 ・学校、保育園でのあいさつや声かけを実施する。 ・のっティ体操の普及を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育園でのあいさつや声かけを継続する。 ・のっティ体操普及推進員の養成体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育園でのあいさつや声かけを定着させる。 ・のっティ体操普及推進員を増やす。

③プロジェクトの成果指標

指標名	単位	現状値 (平成 24 年度)	目標値 (平成 29 年度)	指標の説明
のっティ体操活動数	回	59	90	のっティ体操を普及し、健康増進を図る。
声かけ週間への参加事業所数	事業所	0	50	声かけ週間参加事業所の増加を図る。

※「のっティ体操活動数」の現状値は平成 24 年度見込みです。

【基本目標2 みんなでサポート「支え合い」のまちをつくろう！】 その①

2 地域のボランティアバンク ～日本一をめざそう！～

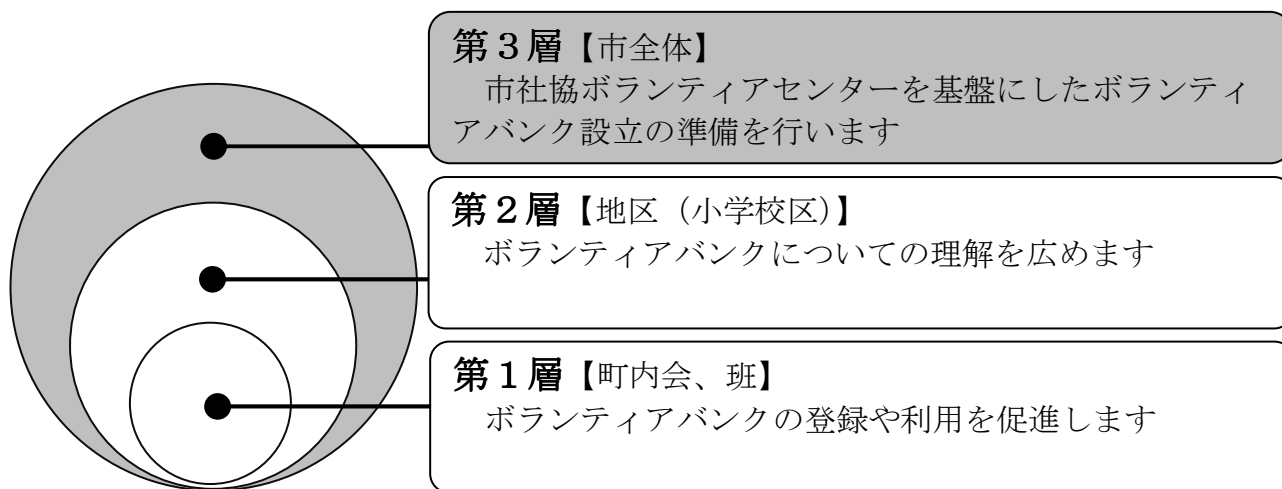
「空いている時間で気軽にボランティアしたい」「地域のために何か活動してみたい」といった声が数多くありますが、「具体的に何をしたいかわからない」「どこに行けばボランティアができるかわからない」という人も多いようです。そこで「ボランティアバンク」をつくり、市民や事業所の「できること」「したいこと」を登録し、「協力してほしい」という要望に適合させます。市、市社協は、市民などから申し込みを受けた場合、ボランティアバンクにつなげます。

また、若い力、特に大学生の力を活用したいとの意見がありました。そこで、大学生やボランティアが協力し、子どもから高齢者までが集うことのできる場（コミュニティカフェ）をつくり、障害のある方の事業所で作っている商品を販売したり、絵本を読み聞かせるなど、いろいろな活動を行います。

さらに、大学生などにじょんからまつりの企画、運営に携わってもらうなど、地域の活性化をめざします。

①どの圏域から実施するか

第3層の市全体で取り組みます。



②プロジェクト実現に向けた役割分担

市社協のボランティアセンターを基盤として、個人ボランティア登録の促進等の活動範囲を広げるボランティアバンクの設立をめざします。市民の取り組みを中心として、3年後の設立をめざして準備していきます。ボランティアバンクの立ち上げ後は、拡充・継続をめざして取り組みます。

	いまずぐできること	3年後にできること	5年後にできること
市民が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・社協のボランティアセンター事業について学習する。 ・ボランティアバンク準備会を立ち上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアバンクを立ち上げる。 ・ボランティアバンク運営会議を開催する。 ・自分のできることを登録する。 ・困ったときはボランティアバンクへ相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者数、利用者を増やす。 ・社会福祉大会で事例報告を実施する。 ・ボランティアバンクへの相談者を増やす。
事業所が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議に参加する。 ・事業所ができる事をボランティアバンクへ登録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議に参加する。 ・ボランティアバンクへ登録する事業所を増やす。
市社協が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター事業についての情報提供をする。 ・補助金を活用し、ボランティアバンクシステムの導入を検討する。 ・準備会に参加及び支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアバンクシステムを導入する。 ・運営会議の開催を支援する。 ・「助けてほしい人」に「助けてもいい人」を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の開催を支援する。 ・「助けてほしい人」に「助けてもいい人」をより円滑に紹介し、件数も増やす。
市が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会に参加及び支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等でボランティアバンクを紹介する ・補助金などについて情報提供する。 ・運営会議に参加する。 ・市民などからの相談をボランティアバンクへつなぐ。 	

③プロジェクトの成果指標

指標名	単位	現状値 (平成 24 年度)	目標値 (平成 29 年度)	指標の説明
ボランティアバンク 登録者数	人	0	200	ボランティア活動の 促進

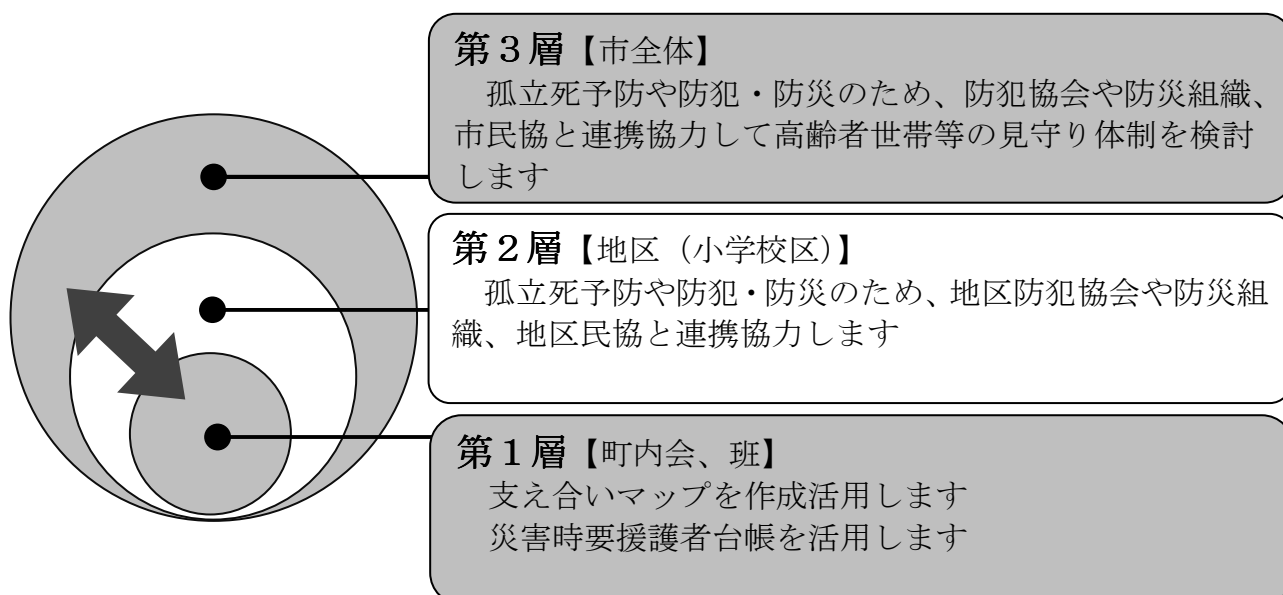
【基本目標2 みんなでサポート「支え合い」のまちをつくろう！】 その②

3 支え合う和と安心の囲いで住み良さアップ

地域には、不審者や変質者の出没、空き巣などの犯罪、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者の増加による孤立死など、さまざまな問題・課題があります。また、東日本大震災以降、災害時に助け合えるしくみづくりが求められています。市民が安心して暮らせるように、それぞれの問題・課題を共有し、解決に向けて取り組みます。

①どの圏域から実施するか

まずは第1層の町内会でモデル的に実践し、次に第3層の市全体に広げて、さらに市全体の取り組みを第1層の町内会へ返していきます。



②プロジェクト実現に向けた役割分担

市民の取り組みを中心として、3年後に課題に応じた部会を立ち上げることをめざします。

	いまずぐできること	3年後できること	5年後できること
市民が すること	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域で孤立死や防災等の課題や解決に向けた提案を話し合う。 支え合いマップを作成し活用する。 災害時要援護者台帳を活用し平常時の見守り体制に活用する。 防犯協会や防災組織、民協が孤立死対策等について連携協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に即した部会を立ち上げる。 課題解決のために協力を募る。 地域同士で情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会が定期的開催され、それぞれの部会で創意工夫された活動が展開される。 実践報告会や課題解決の提案会を開催する。 他の実践報告を参考にさらに創意工夫した活動を実践する。
事業所が すること	<ul style="list-style-type: none"> 市民の行う孤立死や防災等の取り組みに参加協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の行う孤立死や防災等の取り組みに参加協力する事業所を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の行う孤立死や防災等の取り組みに参加協力する事業所を増やす。
市社協が すること	<ul style="list-style-type: none"> 他の社協の取り組みなどを調査し、情報提供する。 支え合いマップ作成に協力する。 防犯協会や防災組織、民生委員児童委員協議会の連携を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の社協の取り組みなどを調査し、情報提供する。 プロジェクトに関する補助金情報を提供する。 部会の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の社協の取り組みなどを調査し、情報提供する。 プロジェクトに関する補助金情報を提供する。 部会の支援をする。 報告会の開催を支援する。
市が すること	<ul style="list-style-type: none"> 他自治体の取り組みを情報提供する。 課題への取り組み方法などに対し、助言や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等で取り組みを紹介する。 プロジェクトに関する補助金情報を提供する。 他自治体の取り組みを情報提供する。 部会の支援をする。 市内の防犯・防災に関する情報を提供する。 	

③プロジェクトの成果指標

指標名	単位	現状値 (平成 24 年度)	目標値 (平成 29 年度)	指標の説明
地域支え合いマップ 作成数	町内会	4	10	地域支え合いマップ の促進

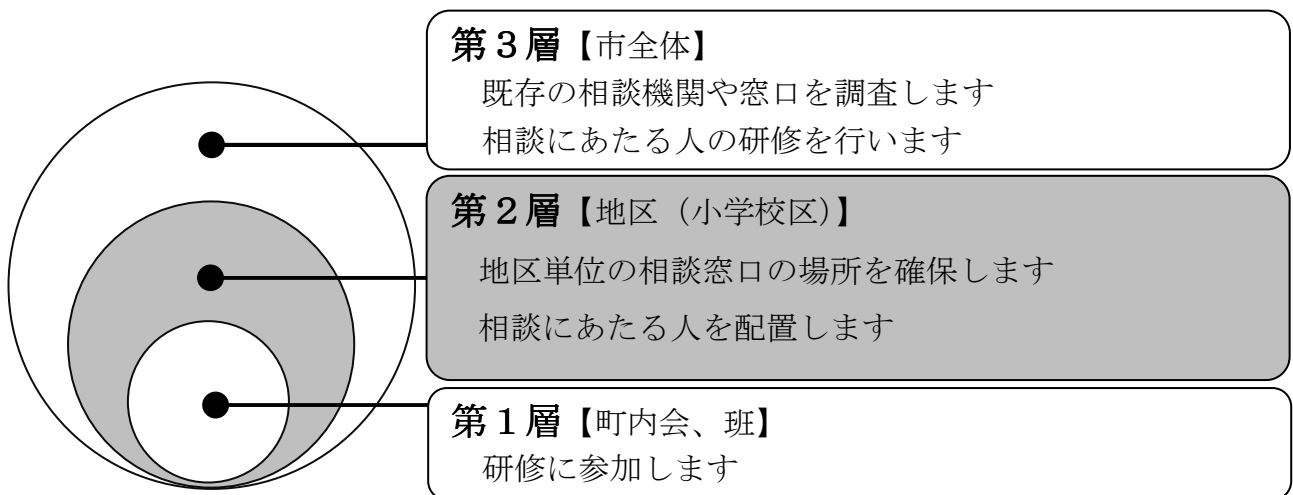
【基本目標3 みんなで「つながるしくみ」安心のまちをつくろう！】

4 なんでも相談してみんけえ～ ～しっかりサポートゆるやかネットワーク～

「困ってるけど、どこに相談すればいいかわからない」「こんなこと相談していいのかな」
困りごとにも、大きな困りごと、小さな困りごと、さまざまなものがあります。「とにかくここに相談してみんけえ」とみんなで声をかけ合えるような、ゆるやかな関係づくりの拠点となる身近な相談窓口が欲しいとの意見がありました。身近な地域に、誰もが・いつでも・どんなことでも、気軽に相談できる隙間のないしくみ、しっかりとサポートしながらもゆるやかなネットワークをつくりたい。そこでは、相談内容に応じて、福祉・保健・医療の専門機関や市や市社協などにしっかりつなぎます。

①どの圏域から実施するか

第2層の地区単位で取り組みます。



②プロジェクト実現に向けた役割分担

市民の取り組みを中心として、3年後に相談窓口を開設することをめざします。そして5年後には、地区単位の相談体制が確立し、気軽に相談してみようという意識が市民に定着していることをめざします。

	いまずぐできること	3年後にできること	5年後にできること
市民が すること	<ul style="list-style-type: none"> 相談員が支援をつなぐ先（協力機関）を調査、発掘する。 準備会を立ち上げる。 地域にどんな相談ニーズがあるのか調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談員を公募や推薦などにより確保する。 相談窓口を開設する。 相談窓口をPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価・検証を行い、必要であれば取り組みを見直す。 相談員のスキルアップや増員、相談日や相談方法の拡大、協力機関を増やすなど、システムを強化する。
事業所が すること	<ul style="list-style-type: none"> 相談員が支援をつなぐ先（協力機関）として協力する。 		
市社協が すること	<ul style="list-style-type: none"> 準備会への助言や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談員を公募する。 相談員に研修を行う。 	
市が すること	<ul style="list-style-type: none"> 準備会への助言や支援をする。 相談窓口の場所を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等で相談窓口を紹介する。 相談員の公募に協力する。 他自治体の取り組みを情報提供する。 	

③プロジェクトの成果指標

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	指標の説明
相談窓口数	箇所	0	4	地区ごとに相談窓口を開設する。
相談件数	件	0	100	気軽に相談できる市民の増加

【基本目標4 声がきこえ、顔の見える「地域環境づくり」をしよう！】

5 よっしゃ行こう 農園のあるひろば

公民館や町内会の集会場など、集える場所が市内にはありますが、普段地域に顔を出していない人にとってはなんとなく行きにくいものです。特に、今まで仕事一筋だった団塊の世代や転入者といった新しい市民にとっては、地域に出て行く「きっかけ」が欲しいものです。

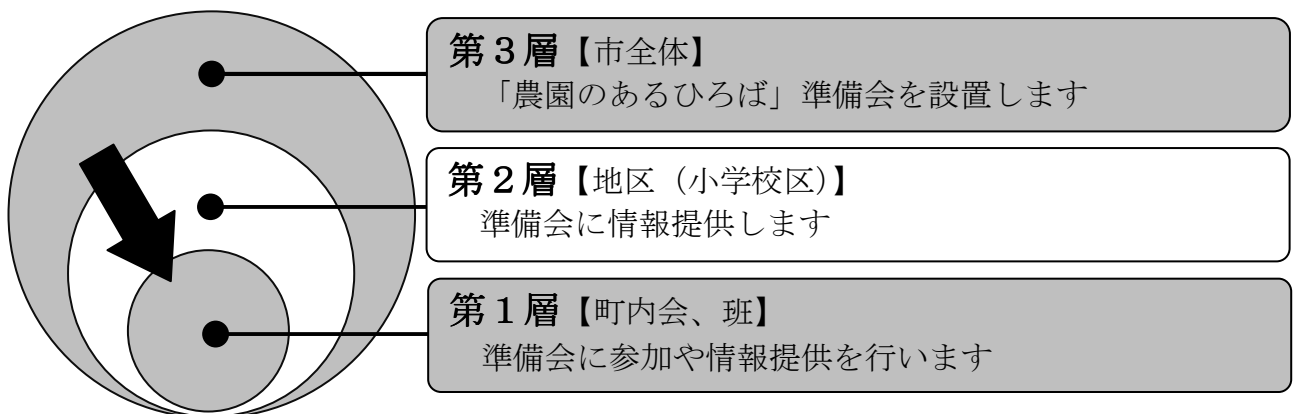
そこで、「きっかけ」のモデルとして「農園のあるひろば」をつくります。

また、空き家や集会場を利用し、ひとり暮らし高齢者や障害のある方などと共に収穫した野菜の試食会を開催することで、社会的に弱い立場の人とのつながりと理解を広げることができます。

しかし、農園はあくまでもひとつの例です。声をかけ合ってふらっと行けば、誰かがいて他愛もない話ができる場所をさまざまな形でつくります。

①どの圏域から実施するか

第3層の市全体でモデル的に取り組み、徐々に第1層に広がります。



②プロジェクト実現に向けた役割分担

市民の取り組みを中心として、5年後にモデルとしての農園を中心とした集う場ができると共にさまざまなひろばづくりに取り組んでいることをめざします。

	いまずぐできること	3年後にできること	5年後にできること
市民が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の協力を得ながら場所探し、声かけをする。 ・部会員中心に広報活動と呼びかけをする。 ・「農園のあるひろば」の準備会を立ち上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを育成する。 ・「農園のあるひろば」の運営会議を立ち上げる。 ・モデルひろばを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経験者の支援を得ながら、「農園のあるひろば」をつくる。 ・参加人員を増やす。 ・さまざまなひろばをつくる取り組みを進める。
事業所が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛同事業所になる。
市社協が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会への助言や支援をする。 ・プロジェクトに関する補助金情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議への助言や支援をする。 ・プロジェクトに関する補助金情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する対応をする。 ・市民・事業所への助言や支援をする。
市が すること	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の取り組みを情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の取り組みを情報提供する。 	

③プロジェクトの成果指標

指標名	単位	現状値 (平成 24 年度)	目標値 (平成 29 年度)	指標の説明
「農園のあるひろば」 など集う場の開設	箇所	0	2	気軽に集うことができる場を開設する。